

三大都市圏の拡大市街地に追加のヒアリング調査を実施。

## E 地区のある区の特徴

- 区内の 7 割弱が宅地。山林 1 割強、雑種地 1 割弱。
- 人口は微減傾向であるが、世帯数は増加傾向。
- 高齢化率は約 30%。
- ニュータウン毎に建築協定等の地域環境を維持するルールが制定されていることが多い。
- 区による区民への意識調査では生活への満足度は 7 割を超えている。また、定住の意向が 8 割を超えている。
- なお、住み続けたくないとの回答でも、交通の便や買い物が便利になることで定住したいという意向がそれぞれ 6 割超。

## E 地区の概要

人口：15,188人（平成31年4月1日現在）  
高齢化率：38.7%（平成31年4月1日現在）

（地区の概要）

- 大部分が宅地で、1970年代以降にニュータウンとして開発。
- 直近数年の地区全体の傾向としては人口は微減であるが、世帯数は1割ほど増加。
- 市街地に向かう道路が渋滞して不便。現在建設中のバイパス道路が期待されている。

（土地利用等に関する取組の特徴）

- E 地区では、自治会の中にまちづくり委員会を発足させ、アンケート調査やコミュニティ施設の設置などの取組を進めている。

## ヒアリングにより得られた知見

（宅地が大部分を占める地域での悪影響の知見）

- 拡大市街地でまだ人口減少はしているものの区内全体の空き家率も低い（1.3%）。長期にわたって住んでいる人が多く、現時点では空き地空き家に伴う土地利用の課題は小さい。
- 少子高齢化を背景とした廃校等を地域の再生・活性化としての活用の方法や公共交通の改善することが課題。

（地域共有の土地利用・管理）

- 一部自治会では、開発業者の協力も得つつ地域住民が集まれるような施設を建設・管理。

（宅地が大部分を占める地域でのコミュニティ活動における知見）

- 自治会への加入率が高く、活動も積極的。地域の共有施設の活用や運用の議論を行う中で地域としてのまとまりが出てきた。

## E 地区航空写真



航空写真（国土地理院 地理院タイル：全国最新写真（シームレス）より）